

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370793

研究課題名(和文)西国城下町の比較類型化研究

研究課題名(英文)A comparative Study on castle town in western Japan

研究代表者

森下 徹(Morishita, Toru)

山口大学・教育学部・教授

研究者番号：90263748

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：これまで三都を中心に進められてきた近世都市史研究に対し、地方城下町の比較検討をし、類型化をめざした研究である。そのさい、武家地、町人地、都市下層社会など、城下町を構成する各要素に即して比較を進めたことが特徴である。そのため、萩をはじめ、岡山、鳥取、松江、津山などについて、絵図類も含めて該当する史料を収集することに重点をおいた。そのうえで、都市下層社会同士の比較、都市社会が周辺農村との関係において成り立っていることの解明、広域を移動する労働力のあり方、などについて成果を発表した。また都市社会の分析方法や近世身分社会の特質に関する研究整理も行っている。

研究成果の概要(英文)：In the past, Japan Early Modern urban history research has been promoted around Edo and Osaka. On the other hand, it is a research to compare the local castle town each other, and to classify it. The characteristic of this study was that the comparison was carried out in conformity with the elements constituting the castle town. Therefore I collected the relevant historical materials. On that, I announced the research result of the comparison of the city People Society, the relation between the urban society and the surrounding farm village, and the way of the labor force which moved the wide area. In addition, I also conducted a research arrangement on the analytical methods of urban society and the characteristics of the modern society.

研究分野：日本近世史

キーワード：城下町 萩

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本近世史における以下の三つの研究動向を背景としている。

吉田伸之によって、城下町の類型・展開序列が提起され、従来バラバラになされてきた戦国城下町、地方城下町、あるいは江戸などの諸研究を包括する見通しが与えられた(吉田伸之「都市との農村、社会と権力」溝口雄三他『アジアから考える』東京大学出版会、1993)。その方法的な特徴は、城下町を分節化された構造からなるものとし、個々の要素の展開の仕方から説明する点にある。これによって地方城下町分析についても、全体との関係のなかに位置付けることが可能となった。

また近年、身分集団、周縁存在の多様なあり方を明らかにした身分的周縁論、さらにそれをふまえて地域社会の固有性を重視した地域社会論が成果をあげている。これによって、個々の地域社会そのものの分析に価値と意味が見いだされることとなった。そこからすれば、地方城下町のこと、江戸を発展の到達点とし、そこへ向けての未熟な段階とのみ位置付けるのではなく、そのものの独自のあり方をいかに見いだすかが、あらためて課題となっている。

ところで瀬戸内圏に即していえば、中央市場としての大坂と、対抗的な地方経済の発展という図式自体は周知の枠組みではある。そうしたなか、神田由築は、瀬戸内各地での芸能興行を、単なる個別史にとどめるのではなく、多様な担い手のあり方をふまえて把握し、それを通して大坂から瀬戸内各地にかけての広汎な社会関係を明らかにしている(神田由築『近世の芸能興行と地域社会』東京大学出版会、1999)。抽象的な市場構造や経済発展の説明にとどまるのではなく、瀬戸内圏が実態のある社会・文化的基盤を伴うものだったことが実証された。さまざまな城下町の比較・類型化を図るうえで、まずはこうした共通する基盤のうえで作業を進めることが有効となる。

2. 研究の目的

以上の研究動向をふまえるとき、以下の点が課題となってくる。地方城下町を近世都市論として位置付けるうえで、江戸など巨大城下町との比較は意識しながらも、必ずしもそれに収斂しない個性的なあり方をみいだすこと、そのために地方城下町同士の類型化論をめざすこと、作業を進めるうえで、全国の諸都市の事例をあれこれつまみ食いするのではなく、一定の社会的・経済的な共通性をふまえて、特定の地域の城下町を分析対象とすること、以上である。

そこで城下町を原・城下町、真正城下町、複合城下町、巨大城下町という諸段階で位置づける発展類型論のうち、真正城下町にあたるものを対象にして、それら相互の比較を図る。中小規模の城下町の多くは、この真正城

下町に当てはまるはずである。そのなかには、城下町としての形成過程、藩政の動向、取り巻く地域社会との関係性などにおける差異が存在し、それぞれに個性があった。そうしたありかたを類型化して整理することをめざす。そのために、類型の差異を生み出す要因を解明しようとしたものである。

3. 研究の方法

研究を進めるにあたっては、以下の3点を基本的な方法とした。アトランダムに諸城下町を取り上げるのではなく、瀬戸内圏という社会的・文化的な関係性を有するなかでの比較をめざすこと、城下町全体を直接に比較するのではなく、分節的な要素のレベルで比較を行うこと、藩領国の枠組みと、地域社会からの規定性という二つの面を関連付けること。

そこで瀬戸内圏に位置する城下町のうち、発展類型化論でいえば、真正城下町にあたるものを対象にし、岡山、津山、鳥取、松江などをとりあげた。そして武家地・町人地・都市下層社会など、個々の要素に即して比較の作業を行おうとした。あわせて周辺の地域社会との関係性についても検討対象とした。そうした観点から関連史料の調査・収集と分析に重点をおいて行なった。

4. 研究成果

該当史料の収集を積極的に行なった。これまで主としてフィールドとしてきたのは萩であり、山口県文書館蔵毛利家文庫に城下町関係史料が種々見いだせる。なかでも「常御仕置帳」という判例集のなかに、城下町の民衆世界に関する記事が豊富に含まれていたの、これを中心に収集・分析した。

それに加えて次のように西国城下町を対象とした所在調査と収集にあたった。岡山では、岡山市立図書館蔵の町人史料国富家文書、岡山県立図書館蔵武家地関係史料、鳥取では、鳥取県立博物館蔵藩政史料のうち、町奉行日記など、津山では津山市郷土資料館蔵の藩政史料愛山文庫より武家地関係史料、また町人史料である玉置家文書など、松江では城下町の絵図類など、である。それらの解読・分析作業を経て、以下の研究を成果として公表している。

まず萩における都市下層社会に関して、武家奉公人の供給構造を中心としたこれまでの研究をまとめた。もともと萩近郊に流入拠点が形成されており、「日用」層が供給源となっていたこと、やがて近世後期になると瀬戸内からの流入が増え、そこに供給を依存するようになるという推移を述べた。そのさい、核となるものとして供給業者の成長があったことも指摘している。城下町が必要とする雇用労働は周辺社会からの供給に頼るしかなく、その供給構造の推移に規定されていたことを明らかにした。

この研究もふまえたうえで、萩と和歌山

について、都市下層社会に即した比較を行った。和歌山では近年、これについての研究が蓄積されており（藤本清二郎『城下町世界の生活史』清文堂出版、2014）それをふまえて、萩と比較したものである。そして、「日用」層ないしは乞食＝勸進層の流入が18世紀前半に問題化し、城下周縁部にそれらの滞在拠点形成されるといふ共通の動向をみいだせた。ただし、治安・警察の担い手に即してみると、賤民にゆだねるか、目明が行うかの違いがあり、そこにはアウトロー社会の展開度の違いを見て取ることができた。個別の城下町をこえて広がる下層社会のあり方に、城下町は規定されてあった。

次に、萩藩領瀬戸内側の農村部においては、特産品である綿織物業の発展と結びついて、綿打や綿商などが分厚く存在していた。その多くは在村するものだった。また広域を移動する職人や「日用」層が、港湾部などを拠点にしつつ行き来し、新田開発などの需要を担っていた。熟練を要する職人ばかりでなく、熟練度の低位な労働力も含めて、瀬戸内のとくに島嶼部を拠点として集団をなして各地を移動していた。そして各地にはそれを受け入れる供給業者があった。瀬戸内沿岸部では、農村社会のなかに、都市的な場が随所に形成されていた。逆にいえば城下町萩はそうした発展からは外れており、あくまで統治の拠点として位置づけられていたことになる。しかし城下町によっては、萩藩の瀬戸内沿岸部で見出せるような経済発展の拠点となることもあったであろう。領内の地域社会との関係において、城下町の類型がありうることとなる。この点は三都以上に、中小規模の城下町において顕著に見いだしうることだと考えられる。

また、商品流通に即した城下町の関係性についての検討も行った。萩藩は、18世紀後半から萩などに藍座を置いて周辺農村から葉藍を買い占め、藍玉を生産する専売制を実施している。ところがこれは品質上、阿波藍に対抗できるものではなく、藍玉を使う領内の紺屋たちからも評判が悪かった。そうしたなか、阿波藍売たちが求める営業保障にこたえた運上徴収を始めることとなり、やがては専売制の主軸はそちらに移行してゆく。藩領をこえた商品流通、あるいは担い手となる商人のあり方によって専売制が規定されていたわけである。ここからは、城下町のあり方を考えるとき、領内ばかりでなく、より広域の商品流通との関係も考慮に入れる必要性が示唆される。

さらに、都市研究を江戸とともに牽引してきた近世大坂研究の研究サーベイも行っている。そして発展類型論、分節構造論、法と社会などの分析方法が、大坂ないしは三都を分析対象とする中でこそ生み出されたものであること、したがって地方城下町に適用する場合には、それに固有なありかたを考へる必要があることを述べた。あわせて、同じ

く巨大城下町としてではあれ、江戸と大坂とでは種々の違いが存在した。その要因には、伝統からの規定性、および周辺の在地社会との関係性が想定できるとした。地方城下町の類型化を考えるさいにも参考となる点であろう。

この他、海外（フランス）の学会誌に、都市・城下町研究が基盤となって発展した近世身分研究の動向を概説した論考も発表している。そこでは、フランス近世の社団が王権による特権と集団の自律性の組み合わせからなっていたのと同じように、公儀によって存立を保障された諸身分集団によって社会が構成されていたこと、ただし、なかでも町と村が核となっていることに日本近世の特質があることを述べている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6件)

森下 徹、近世大坂研究の軌跡と展開、都市史研究、査読有、4、2017、84-90

森下 徹、萩藩領の町と村、山口県史研究、査読無、25、2017、60-80

Morishita Toru, Le Japon premoderne : une societe de statuts. Reflexions sur quatre decennies de debats, Histoire et Economie Societe, 査読有、4-29、2017

森下 徹、近世瀬戸内地域の新田開発にみる出稼ぎ労働、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、199、2015、301-320

森下 徹、都市下層社会 から考える地方城下町、部落問題研究、査読無、213、2015、58-84

森下 徹、城下町萩の武家奉公人、思想、査読有、1084、2014、15-37

〔学会発表〕(計 7件)

森下 徹、萩藩の藍専売と阿州藍、鳴門史学会、於鳴門教育大学、2017

森下 徹、蔵屋敷から見る大坂の民衆世界、都市の巨大化と民衆世界、於イェール大学（合衆国）、2017

森下 徹、徳山藩蔵屋敷と大坂の労働社会、三都研究会、於大阪市立大学、2016

森下 徹、小郡宰判の村と町、身分と地域研究会、於東京大学出版会、2016

森下 徹、萩藩における職人と身分、コローク紛争解決と処理、於リール第3大学（フ

ランス) 2015

森下 徹、江戸の時間規律、
Night: Timescapes in premodern Japan、於
ケンブリッジ大学(イギリス) 2015

森下 徹、<都市下層社会>から考える地
方城下町、部落問題研究所第 52 回全国研究
者集会、於同志社女子大学、2014

〔図書〕(計 2 件)

森下 徹、他、身分的周縁と部落問題の地
方史的展開、部落問題研究所、2016、335

森下 徹、近世都市の労働社会、吉川弘文
館、2014、326

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森下 徹 (Morishita, Toru)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号：90263748

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：

(4) 研究協力者

なし ()